

平成25年度 地区別父母懇談会 開催

二松学舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成25年10月31日発行
(第82号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書

渡辺学長挨拶



(ともに東京会場・九段校舎)



平成二十五年度二松学舎大学地区別父母懇談会が、六月二十三日(日)の札幌市・那覇市を始めとし、七月二十一日(日)まで全国九都市(開催日程順に仙台市・米子市・千代田区〔九段校舎〕・水戸市・富山市・高松市・神戸市)で開催されました。

地区別父母懇談会は、父母会の主要事業の一つで、今年で二十一回を数えます。大学から学長・副学長・学務局長・学部長・両学部の教員及び職員が分担して各地に赴き、父母との懇談を行いました。

懇談会の内容は大学の現況、本学の教育方針、学習状況・学生生活・就職状況等についての説明、個別相談でした。父母の関心が高かったのは、「学習状況」と「就職状況等について」でした。

九段校舎では、キャリアセンターによる「企業が求めている学生の資質とキャリアセンターの学生支援について」の講演、「本学の教員養成について」の講演もあり、好評をいただきました。内容については、八ページに掲載していますので、ご一読下さい。



六月二十三日(日)の北海道、沖縄県を皮切りに全国各地で父母懇談会が開催され、父母と大学教職員の交流が行われました。その内容を寄稿していただきました。

札幌会場

水上 尚子

札幌会場の父母懇親会は、六月二十三日(日)、東武ホテルにて開催されました。大学より山崎副学長、土屋先生、中原入試課長に出席いただき、父母は二名の参加でした。終始なごやかな雰囲気の中で行われました。山崎副学長から授業のカリキュラム、キャリアセンターの取り組みや活用方法等について、丁寧な説明をしていただき、ありがたかったです。特に就職に関しては、

気になっていたのでした。朝食時には、おいしいお弁当を頂きながら、DVDによる「学内の様子、学生のコメント」の紹介があり学生生活が見え、二松学舎がグッと身近に感じられました。個別相談では、山崎副学長より一番気になった二松学舎の就職に関する情報も聞いてよかったです。キャリアセンターを、たくさん活用することや、学生対象の相談室のことなど教えて頂き、先生の誠意と、まごころが感じられました。皆さんも機



会がありましたら、一度参加したらよいと思いました。また、「二松学舎の名前をもっと知ってもらうのには、どうしたらいいですかね」と先生方から聞かれ、参加していたお父様から「直木賞」を受賞したらいいのでは。」とのご意見がありました。二松学舎の卒業生、学生の中から賞をとるような人材が出てくれることを祈っています。

沖縄会場

小浜 美佐子

沖縄会場の父母懇談会は、六月二十三日(日)沖縄にとつて忘れられない慰霊の日にロワジュールホテル那覇で開催されました。大学側からの出席者は、渡辺和則学長をはじめ江藤茂博文学部長、小西明德学生支援課長、志津義弘入試係長の四名にご出席頂き、父母は私たちと四年生の父母の二家族で少し寂しい思いもありましたが、とても和やかな雰囲気の中で行われました。

創立百三十六年を誇る歴史と伝統をもち多くの文化人・著名人が学び、各界をリードする人材を輩出してきた二松学舎大学。大学の現況・学生の学習状況・学生生活など資料や映像を用いた説明に、親元離れた都会での生活に慣れるだけでも大変なのに大学生活は大丈夫なのかと不安でありましたが、安堵することが出来ました。個別相談では、成績や就職について一人一人親身になって相談に乗って頂き感謝しています。就職難の現在、不安なのは文学部を出て「就職はできるのか」という点でした。その悩みにも大学側は、「面倒見の良い大学、それが二松学



舎大学です」この言葉は心強く、娘には卒業までに確実な力をつけて社会に出てほしいと思います。今回の父母懇談会に参加する事で大学側の学生へのきめ細やかな指導を実感し安心していきます。このような機会を作っていただいたことに感謝すると共に、大学及び父母会の益々のご発展を心よりご祈念いたします。

宮城会場

高橋 美紀

宮城会場の父母懇談会は、六月三十日(日)パールホテル仙台で開催されました。福島、宮城、山形から十三名の方が参加され、初めのうちは緊張感が漂っていましたが、渡辺学長のお話が楽しく、次第に和やかな雰囲気になりました。学長のお話の中で印象深かったことは、友達とは自分と合う人と惹かれあうようになっていくから「いつかできる」と思っていたらよい、とお話いただいたことでした。遠く離れていると「友達はできただろうか」などと、とかく心配することばかりですが、お話を聞いて不安感が一気に払しょくされた思いでした。

ご父兄様からの自己紹介の中では、子供さんが夢に向かって真剣に取り組んでおられる様子がわかり、我が子ができるような方々に囲まれて毎日を送っていることに安心しました。また就職活動の際には個人面談が行われ、それが五十年以上も続いていると聞き、あらためて大学の歴史の深さに感激いたしました。朝食をはさんで午後から行われた



個別の面談では、個人の履修表や成績表も用意していただき、大変詳しく解説していただきました。懇談会に参加したことで遠い存在だった大学が身近に感じられるようになったことは、私には大きな収穫でありました。このような機会を設けていただきましたことに感謝いたしますとともに、大学及び父母会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

鳥取会場

杉山 悟

鳥取会場の父母懇談会が、六月三十日(日)、米子全日空ホテルで開催されました。大学より、吉崎一衛副学長、菅原淳子国際政治経済学部長、山崎修教務課長、新保和之入試課係長のご出席を頂きました。参加者は四名でしたが、その分、とても和やかな雰囲気の中で、お話を聞かせていただきました。

ご挨拶のあと、大学の現況について資料を見ながらご説明いただき、大学が長い歴史や誇り高い伝統のもとその理念や目標にもとづき、日々学生達の教育に携わってくださっていることを強く感じました。昼食時に見せていただいたDVDでは、キャンパスでの学生の様子がわかりやすく紹介され、娘の学生生活の一端を知ることが出来ました。

午後からの個別相談では、履修登録確認表等にもとづき、娘の履修状況等の説明をしていただきました。就職難の昨今、大学のキャリアセンターの学生支援についての説明は心強く、積極的に利用させていただくよう娘に伝えたいと思いました。また四年生の御父兄から、就職活



動状況をお聞きできたことも大変参考になりました。さらに当日ご出席の、鳥取県のOB会長さんから、県内でも多くのOBの方が、ご活躍との話もうかがい、有意義でした。今回、このような機会を作っていただきましたことに感謝いたしますとともに、大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

東京会場

新井 久美子

東京会場の父母懇談会は、七月六日(土) 九段校舎の中洲記念講堂において開催されました。

三輪秀彰父母会会長の挨拶にはじまり、渡辺和則学長挨拶の中では、九段新校舎建設計画も紹介され、大学の未来への展望に期待が膨らみました。江藤茂博文学部長・菅原淳子国際政治経済学部長による学部・学科の現況説明の後、学生の学習状況や履修登録確認表・成績通知表の見方等が丁寧の説明されました。講堂二階席にも及ぶ多数の参加者でした。昼食のお弁当を地下一階の学生食堂でいただき、美しい景色の十三階のラウンジで休憩をとると、都心でありながらも緑多い環境に落ち着きを感じました。

午後は、講堂で「就職に関する講演会」と五〇七教室で「就職に関する講演会」が開催されました。後者の大柳勇治教授の講話を拝聴いたしました。大変具体的で分かりやすいお話で、教員養成への先生方の意気込みが伝わる内容でした。十四時からの個別相談でも、成績や就職において、一人一人を大切に



してくださる姿勢に感動しました。また、豊富な専門書がある図書館や、二号館での本学卒業の作詞家水木かおる氏の企画展も拝見でき、充実した時を過ごすことができました。このような機会をつくって頂きましたことに感謝いたしますとともに、大学及び父母会の今後益々のご発展を心より祈念申し上げます。

茨城会場

新田 孝司

七月二十日(土)、水戸三の丸ホテルにて、父母懇談会が開催されました。

ご挨拶のあと、大学の現況や学生生活の様子など丁寧かつ詳細に説明していただきました。また、就職等に関しても、先生方は質問に丁寧に答えてくださり、大変参考になりました。昼食には、おいしいお弁当をいただき、午後からは個別相談が行われました。

実は私、諸用の為、午後の個別相談には参加できない予定でしたが、当日都合が付き、急遽お願いしたにもかかわらず、心よく対応していただきました。本当にありがとうございます。

個別相談は、先生方より具体的なアドバイスがいただける、とても有意義な機会だと感じました。

息子は自宅通学で、かなり早い時間に家を出ますが、毎朝笑顔で「行ってきます」という姿に、「充実した大学生活なのだろう」と感じておりましたが、今回やはり安心してお任せできると確信いたしました。



最後にこのような機会を作っていただき、本当にありがとうございます。大学及び父母会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

富山会場

高嶋 八重子

富山会場の父母懇談会は、七月二十一日(日)の午前十一時よりホテルグランテラス富山に於いて開催され一、四年生の学生の父母六家族八名の参加者がありました。

娘を東京へ送り出して、早一年と三ヶ月経とうとしています。不安な気持ちで日々過ごしている中、父母懇談会が行われる事を知り出席しようと思えました。

渡辺学長をはじめ、稲田文学部教授、小西学生支援課長、新保入試課係長、同窓会副会長の五名のご臨席を頂きました。先生方の心暖かいお気持ちや学校教育の方針、DVDでのキャンパス内での学生の方々の様子を分りやすく紹介され安心した気持ちになりました。当日配られた履修登録確認表、成績一覧表、GPAの見方について丁寧に説明して頂き理解することが出来ました。

百三十六年の歴史ある学校で娘が沢山の事を学ばせて頂ける事が分かり嬉しく思い感謝しました。渡辺学長のお話の中で、大学での生活、勉強をまじめに取り組む事の



大切さを述べられ同感致しました。学生にきめ細かい指導、配慮をして頂ける事にも感動し、子供を安心してお任せでき、将来を託すことが出来るかと確信いたしました。二松学舎大学教職員の皆様方により感謝申し上げます。大学及び父母会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

香川会場

白川 義人

四国地区の父母会がさる七月二十七日(土)、吉崎一衛副学長、押野洋国際政治経済学部教授、神河秀春学務局次長、大上哲郎入試課課長補佐の四氏ご出席のもと、高松市のリーガホテルゼストで開かれました。三家族四名の出席でしたが、吉崎先生から丁寧なお話をいただきました。

私どもの誰もが不安を覚えながら見守っておりますが、「二松学舎の学生は高い就職率を誇っています。学生たちを信頼し温かく見守ってほしい」との吉崎先生のお言葉に安堵するとともに、大学側の熱意と誠意を感じ取ることができました。

個別面談では各学生の成績表と履修状況が示され、就職や海外留学についてのアドバイスもいただきました。またゼミの高澤先生から「来春



の卒業に向けて大作に取り組んでいきます」とのメッセージをいただき、入学した3年前に比べて少し成長?した我が娘に頼もしさも感じました。昼食をいただきながらのDVD鑑賞では、二松学舎の歴史や学窓に学んだ先人の偉大な業績を知り、あらためて誇りを感じたことでした。お忙しい中、四国までお越しいただき感謝申し上げますとともに、大学および父母会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

兵庫会場

大和 英隆

七月二十八日、兵庫会場の地区別父母懇談会がホテルサンルートソプラ神戸で開催されました。大学から吉崎一衛副学長をはじめ、押野洋国際政治学部教授、神河秀春学務局次長、大上哲郎入試課長補佐の四名のご臨席を頂き静かな雰囲気の中行われました。

当日の兵庫会場の出席者は、私達夫婦だけの参加にも関わらず立派な会場を用意して頂き大変恐縮しましたが、先生方の気さくな接し方に心が和む思いでした。

大学の歴史をはじめ現況と就職状況、学生達の生活など様々な説明を詳しくして頂き、個別の履修登録確認表の配布に続き現在の出席状況やゼミの教授のコメントなどきめ細やかにサポートして頂いている事に驚きました。

今後の学習の事や就職活動の事、そしてキャリアセンターの利用などのアドバイスを受けとても参考になりました。

昼食時に見せていただいたDVDで、この素晴らしい環境で大学生活を送れる事に安心と感動し、神河学

務局次長との雑談の中にも学生達に対する愛情がにじみ出ていました。二松学舎に入學させてよかったですと再度確信すると共に、有意義な時間としてこの機会を作って頂きありがとうございました。大学及び父母会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。



私の学生時代



国際政治経済学部
須藤和敬

子供の頃から典型的な理系人間だった私は、大学で物理を専攻し現在に至っている。本学では数少ない理系教員の一人である。

文系とは異なり、多くの理系では、研究室に配属になるといきなり昼夜を問わない生活が始まる。研究室の電気は夜通し消えることがなく、絶えず誰かがいるのだが、最も人口密度が高いのは夜中であり、逆に午前中はあまり人がいない。例にもれず私も同様の生活を送っていた。

それまでの私といえば、多くの一般の大学生と同じように、勉強というよりはアルバイトと遊びに時間を費やしていた。今思い出してもテスト前以外にまじめに勉強をした記憶がない。しかし、研究室に入るやいなや生活が一変することとなってしまった。ゼミで読む論文・参考書はすべて英語になり、英語が大の苦手だった私には大変な苦勞であった。

私のいた研究室が主催の国際会議が開かれたときには、名前を書いたプラカードを持ち、見ず知らずの外国人研究者を空港まで迎えにも行っ

た。英語、特に聞く・話すのできない学生だった私にとつて、彼を案内する電車内の無言の空気はなんとも居心地の悪いものだったのを覚えている。

中でも自分なりに一番がんばったと思えるのは修士論文の作成である。私のいた研究室では修士論文は日本語で書くのが一般的だったのだが、無理にでも自分に負荷をかけた方がいいと勘違いし、何日も研究室に泊まり込みで、自分の研究成果を吟味し、慣れない英語で修士論文を書いた。苦勞はしたが、そこで培ったプライドが後の私の研究者人生を決定付けたのではないかと感じている。

私は元来、予定通りにコツコツと物事を進められる人間ではない。しかしここぞというときの瞬発力はある方だと思ふ。要は最後に帳尻を合わせればいいのだという行動規範(甘え?)は、間違いなく学生時代に培ったものだ。あまり褒められたものではないが、私のコアを形成する重要なファクターの一つである。

父母会地区別父母懇談会アンケート 集計結果

1. アンケート回答者数

分類	北海道(2)	沖縄(3)	宮城(13)	鳥取(4)	東京(290)	茨城(36)	富山(8)	香川(4)	兵庫(2)	合計(362)
1年生の父母	0	0	1	0	47	6	3	0	0	57
2年生の父母	0	1	3	1	19	7	2	1	0	34
3年生の父母	2	0	3	0	16	4	0	1	2	28
4年生の父母	0	1	4	2	15	3	1	2	0	28
学年不明	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	2	2	11	3	98	20	6	4	2	148

()内の数字は出席者数

2. 父母懇談会実施項目の「有意義」回答数

項目	北海道	沖縄	宮城	鳥取	東京	茨城	富山	香川	兵庫	合計
大学の現況報告	2	2	6	3	62	14	4	3	2	98
学生生活について	0	1	5	1	19	0	1	3	2	32
学生の学習状況について	1	2	6	1	41	6	4	4	2	67
就職状況について	0	1	7	2	47	7	5	3	2	74
個別相談について	1	1	2	1	5	1	0	4	2	17
その他	0	0	0	0	8	2	0	1	0	11

3. 父母会活動活性化要望項目

項目	北海道	沖縄	宮城	鳥取	東京	茨城	富山	香川	兵庫	合計
地区別父母懇談会の実施	1	2	7	0	47	7	3	3	2	72
教員の海外研修助成	0	1	0	0	14	1	0	2	0	18
海外研修学生引率者助成	0	0	0	0	10	3	0	1	0	14
就職指導に対する助成	0	2	6	2	61	12	3	4	2	92
新入生教育に対する助成	0	0	0	1	11	1	0	1	0	14
課外活動団体への助成・学生顕彰など	0	0	1	1	22	1	0	2	0	27
大学行事への助成	0	0	1	0	14	3	1	1	0	20
卒業パーティーの開催	0	0	0	0	5	1	0	1	0	7
卒業アルバムの贈呈	0	0	1	1	9	0	0	0	0	11
奨学金の給付	0	2	2	1	21	1	1	1	0	29
父母会報の発行	0	0	3	0	17	1	0	1	0	22
留学生支援に関する助成	0	1	1	1	6	1	0	0	0	10
弔慰金・災害見舞金の支給	0	0	1	0	8	2	0	0	0	11

とても暑かった夏も過ぎ、あつという間に涼しくなりました。秋セメに入ってからの子生活も、落ち着いてきたように感じます。2020年、東京でオリンピックが開催される事となりました。体育を行う者として、大変嬉しく思います。前回の東京オリンピックの記憶と言え、マラソンです。エチオピアのアベベ選手が、裸足でトップを走っていました。

学生相談室

だより 82

カウンセラー・教授 白石まりも

親は子供の人生の指導者でもあります。しかし、子供は親の指導いでしょうか？友達のような親子関係であれば、子供を叱りにくくなります。やるべき事をやらなかった時、まあいいや！と放つておいて、いざ大変な事になるとちやんとおっしゃる。他人のせいにして逃げたしまう学生や、少し強い話し方をすると、立ち直れない程、落ち込んでしまふ学生もいます。学年が進むと、進路や卒業などが関わってきます。大学に行けなくなってしまうたり、

動も立派な人が沢山いるように思われます。指導者の人格が大きく影響しています。少し前までは、愛のムチという暴力や、パワハラで恐怖を植え付け、絶対的権力者となり、何をしても許されると勘違いしてしまい、道を踏み外した指導者が教育の現場でもいました。その頃は、強くなる為には暴力も容認され、勝つこ

行っているのに単位が取れていない、など、ちよつと相談してみたら、相談室を思い出してきてください。相談室が、お役に立てるかもしれません。保護者からの相談も、お受けいたします。お気軽に御連絡ください。

企業が求めている学生とは (内定報告会より)

今年度も、東京地区別父母懇談会において、内定者の報告会を開催いたしました。

今回の企業は、本学の学内説明会にも継続的にご参加いただいている川崎に本拠を持つ建築資材商社です。長年多くの卒業生を受け入れていただいておりますが、ここ数年はご縁がなかった会社でした。

久々の内定者ということで、私たちキャリアセンター職員はもちろんのこと、企業様にも喜んでいただき、採用責任者の人事担当役員自らが他の予定もある中、無理を押ししてご参加くださいました。

内定学生からは、どのように就職活動を行ったのか、実際の選考(筆記試験・面接など)はどのようなものなのか、これから就職活動を始める子どもを持つ親に伝えたいこと(どのように手を貸してもらいたかったか、どんなアドバイスがうれしかったかなど)などについて具体的な事例を交えながら話をしてくれました。

採用責任者の方からは、今回の本学内定者の内定に至るまでの選考過程はもちろんのこと、現在の就職活動を取り巻く状況なども合わせてご

説明いただきました。

いろいろなお話を頂きましたが、いわゆる「就活テクニク」を上辺だけ身につけても、人事の方はすべて見抜いてしまう、それよりもむしろ自分のやりたいこと、やってきたことをしっかりと伝えていくことの大切さ、そのためにはキャリアセンターを上手に利用することの重要性を教えてくださいました。

私たちキャリアセンター職員も、企業様の期待に応えられるようにより一層の学生支援をしていきたいと思えます。

キャリアセンターの学生支援について

今春より、キャリアセンターがリアルをすることをご存知でしょうか？

今までのキャリアセンターは、入口が少し奥まっております、入りづらいつの音が多く寄せられていました。今回三階のエレベーターを降りてすぐ入口を設け、配架図書なども一新し、「就職のため」だけでない、学生の利用スペースを設置しました。学生のなかには、「キャリアセンターは就職の時に利用するところ」ある

いは「就職以外の目的では使っていない場所」「三年次生(就活直前)になつたら行けばいい場所」という意識が強いようです。一・二年次からの利用を促進し、ここで、学部・学年の枠を超え、学生同士が刺激をしよう空気ができることを期待しています。

「キャリアセンターだより」と重複する部分もありますが、キャリアセンターでは、各種講座の開催、学内検定試験の実施をしております。しかし残念なことに、ここ一・二年、参加者が減少傾向にあります。

私たちも周知方法の見直しなどを行い、より多くの学生の参加を促したいと考えておりますので、ご父母の皆様からも積極的に参加するよう御指導をお願いいたします。

三年次生の支援に関しては、通年で「就職特別講座」を開催しております。秋の講座につきましては、就職活動本番に向けて、模擬試験・模擬面接なども取り入れ、より実践的な内容となっております。

さらに十月より、三年次生に対しては、全学生を対象に、個人面接を行ってまいります。この個人面接は、一般企業・公務員・教職など就職をする学生のみならず、進学・留学を考えている学生に対しても、各人の進路希望に沿ったアドバイスを行っ

ていきますので、進路の如何にかかわらず、必ず面接を受けるように御指導お願いいたします。

四年次生で、まだ進路が決まっておらず、就職が決まらないから、資格取得のために専門学校に行こうと考える学生も出始める時期です。国や自治体の支援で働きながら資格を取れる場合などもありますので、進路を決める際にはぜひ一度相談に来ていただきたいと思います。

今年の就職環境は、厳しいながらもだいぶ改善されてきています。諦めなければ結果は付いてきます。三年次生の就職活動が始まりだすと、キャリアセンターに行きにくくなるようですが、勇気を出して一歩足を踏み出せるように背中を押してあげてください。

キャリアセンターだより 32

キャリアセンターのスタッフが変更となりました。

九月一日付の人事異動により、馬淵就職支援課長が学務課へ異動となり、後任に山崎教務課長が、就職支援課長に就任いたしました。

また、キャリア支援、企業開拓等をさらに強化すべく、大野修一氏(元日本銀行)がキャリアセンター特命教授に就任いたしました。ここで、改めてキャリアセンター並びに、就職支援課のスタッフをご紹介します。

- キャリアセンター長 田端克至教授 (国際政治経済学部教授)
- キャリアセンター事務部長 高林由美子
- 就職支援課長 山崎 修
- 就職支援課長補佐 室井 宏之
- 就職支援係長 大塚 公子
- 就職支援係員 平 慧子
- キャリアセンター特命教授 高橋 保雄
- 高野 修一
- 大野 昌信
- 安藝 昌信
- キャリア相談員

以上、新体制のもと、就職、キャリア支援に一層尽力して参りますので、よろしく願っています。

また、ここで後期のキャリア関連の行事のご案内をいたします。ご父母の皆さまにおかれましては、学生にこれらの行事に積極的に参加するよう、ご家庭でご指導くださいますようお願い申し上げます。

- 十月二日～十一月二十九日 「三年次生対象個人面談」
- (両学部の三年次生全員が対象です。)
- 十月二日～十一月十一日 「三年次生対象公務員合格教養実践コース」
- 十月三日～十一月二十八日 「三年次生対象就職特別講座」

- この講座では、論文文試験対策、SPI試験対策、面接対策のほか、スーツの着こなし講座を行います。
- 十月三十一日～三月二十日 「二年次生対象公務員準備および

SPI試験対策講座

- 十一月七日、十四日、二十一日 「三年次生対象日経講座『就活直前対策講座』」
- 十一月十六日 「三年次生女子学生対象メイクアップ講座」
- 十二月七日 「三年次生対象企業採用担当者による模擬面接会」

この他、学内合同企業説明会等、多くの行事を予定しております。詳しくは、キャリアセンターまでお問い合わせください。

日本語検定・団体表彰【日本商工会議所会頭賞】を受賞

六月十五日(土)に学内にて日本語検定委員会主催 平成二十五年第一回日本語検定が行なわれました。三級を五十名が受検。多くの受検者が合格することができ、団体として優秀な成績を修めたことにより【日本商工会議所・会頭賞】を受賞することができました。

日本語検定は、「語彙」「文法」「敬語」「漢字」「言葉の意味」「表記」の全分野から出題される「日本語の力」をはかる検定です。企業が実施する就職採用試験の国語対策だけでなく、教員採用試験・公務員試験にも有効な検定試験です。

本学での開催は、父母会より多大な支援をうけ、毎年実施しています。



オーストラリア語学研修 報告

オーストラリア屈指の名門大学であるクイーンズランド大学(ブリスベン市)附属語学教育機関(CTEJOC)において、2013年8月17日から9月8日までの3週間、オーストラリア語学研修が行われた。本学では、前回西シドニー大学で行った語学研修(2002年実施)以来、10年ぶりの英語圏での語学研修の実施となった。文学部、国際政治経済学部から計16名(男子14名・女子2名)の学生が参加し、前半を金子智香専任講師、後半をファルヴォA.R.教授が引率した。

本学とICTEJOCが共同で企画した本研修では、午前中はコミュニケーション力強化に重点を置いた英語授業で、プレゼンテーションや現地大学生へのインタビュー等で実践的な英会話に取り組み、午後には教室内外で様々なアクティビティが組み込まれている。現地大学生とシティアミーヤス

ポーツを通して交流し、オーストラリアと日本の経済・文化に関するゲスト講義、クイーンズランド州を代表する国立公園や動植物園の見学などを通して、オーストラリア固有の豊かな自然に触れ、多民族社会への理解を深めた。ホームステイでは、現地の人の生活様式を体験し、家族の一員として過ごすことで、帰国時には別れがたいと感じるようなつながりを築けた。

海外渡航やホームステイが初めてという参加者も多かったが、次第に慣れて自分のペースをつかむと活動の幅を広げ、積極的に他クラスの国籍の異なる留学生と友達になったり、ホストファミリーとの週末を楽しんだり、大学の同好会活動に参加したりと社交的に過ごす姿が見られた。

これまで学んできた英語の力を実生活で試し、多文化社会への柔軟性を磨き、視野を広げて新しいことに挑戦すること、今後の学業や将来のキャリアにおいてグローバルに活動するための、最初の一步となったことと期待される。

(学生支援課 高橋 真理)



私は以前から英語圏の国へ行き、自分の語学力が生きた会話の中でどの程度伝えることができるか挑戦してきました。今回の語学研修に参加しました。

オーストラリアでは、日本との違いを様々な点で感じましたが、到着してまず感じたことは、日本と空気が全く異なり非常に乾燥しているということでした。実際に、3週間滞在中、一回も雨が降るといことが無く毎日が晴天続きで、ホームステイ先でシャワーの時間が5分間という家庭のルールも納得することが出来ました。帰国後は、自分の水の使い方に関しても改めて考えるようになりました。

クイーンズランド大学では、現地の大学生と関わる授業で英語の力を試すことができ、とても有意義でした。ただ、英語を本当に学ぶのに二松学舎の学生同士で授業を受けることが多く、どうしても日本語に頼ってしまう部分があったので、私は日本人同士での甘えや、安易な日本語の使用などが出来ない状況が、もう少しあっても良かったのではないかと思います。

ホームステイ先では、とにかく何でもよいので話さなくては勉強にならないと思います、間違えは気にせず話し続け



ました。最初のうちはなかなかうまく伝えることができず、ホームステイ先の方が翻訳機を出してくれることが多々あり、自分は今まで英語の何を学んできたのかと落ち込むこともありました。しかし、ホームステイ先の方が学校の先生という恵まれた環境だったので、1週目、2週目と毎日のように日記の課題の指導を頼んだ甲斐あって、また、ホームステイ先の息子さんが日本のアニメ・漫画好きということもあり、最後の1週間は共通の話題で盛り上がる事が出来ました。私はこの出来事で、オーストラリアに来たばかりの頃よりも英会話が上達したと実感することが出来ました。

最後に、サポートしてくれた両親やこの研修に携わってくれた方々に感謝したいと思います。

第17回 中国語・歴史文化研修 報告

今年で第17回目を迎えた中国語・歴史文化研修は、8月8日から8月28日の3週間の日程で行われた。文学部、国際政治経済学部から計14名(男子5名・女子9名)の学生が参加し、前半を松浦史子専任講師、後半を武永尚子教授が引率した。

研修先は、本学の協定校である北京大学歴史学系。本研修を始め、毎年交換留学生や教職員相互派遣などが行われ、非常に良好な交流関係を築いている。

本研修の特徴として、午前中はベテラン講師による少人数制の中国語授業、午後は補講や中国の歴史文化講座も開講される。また、研修には名所旧跡見学や京劇などの伝統文化芸能鑑賞なども含まれており、充実したプログラム構成となっている。

参加学生のほとんどは、3週間も異国に滞在するのは初めての経験だったが、北京大学の講師陣や本校引率教員のきめ細やかな指導の下、授業で学んだ中国語を駆使し、時には筆談を用いて現地の人々と交流をはかっていた。生活習慣や文化の違いにも柔軟に適応し、自ら積極的に異なる文化を体験し、理解しようとする姿勢が見られた。この3週間の海外研修は、参加学生にとって、語学の習得だけでなく、「異文化」と「多様性」への理解を深め、グローバル感覚を養う良い機会になったに違いない。



(学生支援課 石川 静香)

海外に出るのはこれが初めてだったので不安な気持ちも大きく、研修への参加は私にとって勇気の要る決断でしたが、中国最高峰の大学である北京大学で学べることに大きな魅力を感じ、中国語・歴史文化研修への参加を決心しました。

現地に着くと、目に入るものがすべて新鮮で、まさに「百聞は一見に如かず」といった経験の連続でした。万里の長城や紫禁城などの迫力や壮大さ、北京ダックの美味しさは教科書では学べないことです。語学を学ぶことはもちろんですが、現地の習慣や料理などを体験できることもこの研修の醍醐味で、多くの貴重な経験ができました。実際に現地の人たちと話してみると、教科書には書かれていない俗語的な中国語を聞くことができ、とても興味深いものでした。

中国語の授業は2つのクラスに別れ、自分のレベルに合った指導を受けられることができました。私は林承節先生にお世話になりました。林先生は、とても優しく丁寧に指導をして



くださり、帰国の日は本当に寂しく、お別れが辛かった程です。他国の言語や文化を学ぶことで、日本とは、日本人とは何か、ということを考えるようになり、今まで気付くことの無かった日本の素晴らしさが見えるようにもなりました。

研修の間に日本食が恋しくなり、持って行ったインスタント味噌汁を同室の友人と感激しながら飲んだことは、とても良い思い出です。

この研修は、本当に私を大きく成長させてくれました。しかし、これは家族の応援が無ければ叶わなかったことです。私の挑戦を、力強く支えてくれた家族への感謝の気持ちを忘れずに、引き続き中国語のステップアップに励みたいと思っています。

江藤ゼミナール

江藤ゼミナールでは、主に小説や映画作品の批評をしています。映像、メディア専攻ではない学生も多くいますが、三年次にテキストとして『批評理論』を使い、物語の構造や解釈の必要性を理解し、様々な切り口から行える批評の仕方を学ぶことができます。夏合宿は栃木の那須高原で行い、江藤先生も含めて各自が持ち寄った作品に対するディスカッションや、映画鑑賞の課題としていた『おおかみこどもの雨と雪』の批評会をしました。合宿後の授業では、『一枚のハガキ』『デジモンアド

ベンチャーボ
くらのウォー
ゲーム!』言
の葉の庭』など様々なジャンルや年代の作品を鑑賞しましたが、単に流し観るのではなく、『批評理論』で学んだことを活かしながら鑑賞、批評することができる一年を過ごせたと思います。

四年生になってからは『三四郎』の研究、発表を行っています。改めて純文学に触れてみると、映像作品との違いだけではなく、人物同士の関係性から物語全体の着地点に至るまで、多くの切り口を見つけて読み取ることが以前よりも格段に面白く感じられました。夏合宿は沖繩の瀬底島に行き、松本ゼミナールと合同で映画撮影を行いました。お互いのゼミナールにとって

良い刺激になり、批評とはまた違う魅力を感じ出来る有意義な合宿となりました。

卒業研究は特に決まった指定がなく、各自が学び、興味を持ったことについて研究、制作をします。研究対象は多岐に渡りますが、江藤先生は幅広いジャンルにもピンポイントでアドバイスをくださるので、学生はとても自由な構想し、研究を進めることができます。

国文学科四年
諸橋佳苗



土屋ゼミナール

私たちの土屋ゼミナールでは、民法について学んでいきます。ゼミの時間にはいくつかのテーマから自分が最も興味のあるものを選択し、次の週から順番に発表を行います。また、自分の発表がない時は、その時の発表テーマについて2000字のレポートにしてまとめ、質疑応答で知識を深めています。

ゼミの授業以外にも毎年夏と冬に合宿を行っています。日程は2泊3日で行い、1日目と2日目の午前中まで各自が決めたテーマや卒業論文についての発表を行います。2日目の午

後からはレクリエーションを行い、9月の夏合宿ではどう狩りに行き、皆で楽しく過ごしてきました。

土屋ゼミナールでは毎年OB・OGの方々とクリスマスパーティーを開いて、現役の学生だけでなく社会人の先輩方との交流があり、様々なお話を聞くことができ、貴重な時間を過ごすことができます。

ゼミ生は現在5名と少ないですが、その分一つのテーマに対し深く追求して学ぶことができ、卒業論文については土屋先生が懇切丁寧に指導してくださるので、自分たちの興味がある問題に好きなだけ取り組み学ぶことができます。

今日、民法の改正や従来

合憲と判断されていた民法の規定が違憲と判断され、これまで通りの民法の考え方が通じない所まで来ているように感じます。だからこそ、私達は身近な民法の知識を身に付け、私達が社会へ出た時に正しい知識を持つて問題に取り組みむことが大切だと思います。

国際政治
経済学科四年
梶原千佳



編集後記

秋の深まりを感じる今日この頃ですが、会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

会報八二号では、全国九会場で開催された地区別父母懇談会の模様を掲載しております。今年度の懇談会は三五九名と多くの皆さまにご参加いただき、皆さまの大学への高い関心を感じました。懇談会の際にご協力いただきましたアンケートをまとめたところ、大学の現況・就職状況について多くの方が「有意義だった」と回答しました。また、活性化要望としては「就職指導に対する助成」が最も多く、就職に対する関心が高いということが感じられました。いただいたアンケートは、今後の父母会の活動に役立ててまいります。

今年も「創緑祭」がこの会報がお手元に届く十一月二日・三日に行われます。若いパワーが溢れんばかりの活気ある催し物です。父母会も毎年「父母会喫茶室」として参加させていただいています。十二階窓辺にひろがる、日本武道館の向こうに東京スカイツリーという素敵な景色を眺めながらの休憩は好評で、毎年多くの方にご利用いただいております。大学に直接足を運ぶ機会には限られています。来年は、ご予約にお入れ下さい。

大学のホームページ内に父母会のホームページがございますので、機会がありましたら是非ご覧下さい。